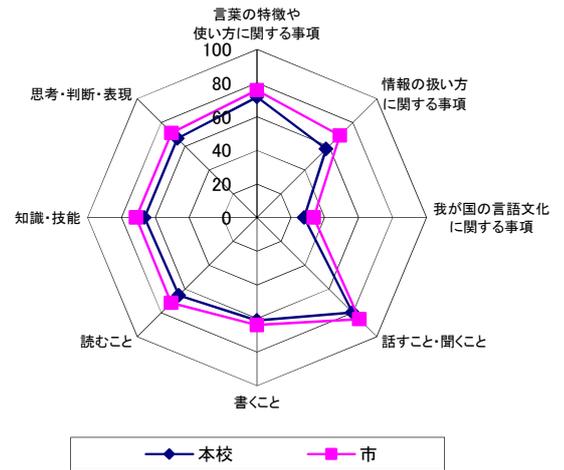


宇都宮市立五代小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	71.7	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	57.7	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	27.8	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	79.7	85.5	86.5
	書くこと	61.2	63.9	65.8
	読むこと	65.3	71.6	69.5
観点別	知識・技能	66.4	71.3	72.9
	思考・判断・表現	66.5	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

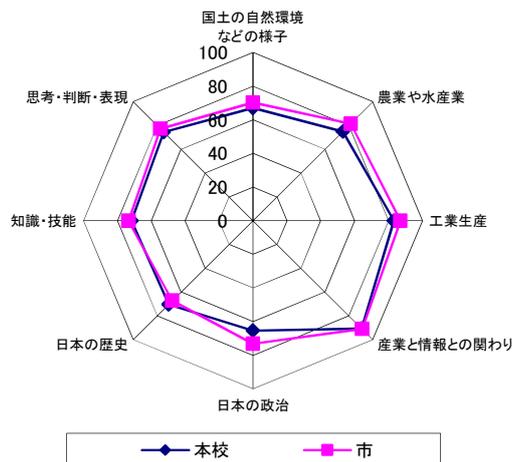
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市の平均を4.1ポイント下回っている。 ・「第6学年に配当されている漢字を正しく読んでいるかどうかをみる」設問における正答率は、市や全国平均とほぼ同じ。 ・「文と文との接続の関係を理解しているかどうかをみる」設問における正答率は、市の平均を16.4ポイント、全国平均を20.5ポイント下回っている。	・授業の導入時や朝の学習の時間などで、既習の漢字の定着を図り、正しい読み・書きを身に付けさせる。 ・文と文の接続の関係を理解するためには、読解力や論理的思考力の基礎を固める必要がある。そのために、文章が書けるだけでなく、相手に自分の気持ちを論理的に説明することができる活動を取り入れていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を11.4ポイント下回っている。 ・「原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」設問における正答率は、市の平均を11.4ポイント、全国平均を9.3ポイント下回っている。	・日常的に文章の中にある情報を整理したり、図表・グラフの意味を読み取って活用したりする活動を取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均を5.7ポイント下回っている。 ・「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解しているかどうかをみる」設問における正答率は、市の平均33.5%、全国平均37.2%と低い。本校の正答率も、27.8%と低い。	・今後も読書の充実を図ることで知識を豊かにし、様々な場面で生かすとともに、自分の考えを広げる手立てとなるようにしていく。 ・新しい言葉に出会えるよう、国語辞典やタブレットを使って意味調べをするなどの習慣化を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を5.8ポイント下回っている。 ・「話の内容を捉えているかどうかをみる」設問においては、市の平均を下回っているものの0.3ポイントとほぼ変わらない。 ・「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかどうかをみる」設問における正答率は、市の平均より9ポイント下回っている。	・他教科との関連を図り、児童の日常生活に生きて働くように話合いの場を設定していく。 ・ペアやグループの話合い活動を充実させ、互いの考えの共通点や相違点を確認しながら話合いを進めていけるようにする。 ・授業のまとめでは、学びの深まりを実感できるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均を2.7ポイント下回っている。 ・「自分の意見とその理由を明確にして書いているかどうかをみる」設問における正答率は、市の平均を3ポイント上回っている。 ・「予想される反論とそれに対する意見を書いているかどうかをみる」設問における正答率は、市の平均を2.4ポイント上回っている。	・文章を書く目的や意図に応じて、伝えたいことや自分の考えを明確にしながらかき、友達と文章を読み合ったりする活動の充実を図っていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を6.3ポイント下回っている。 ・「文章全体の構成を捉えているかどうかをみる」設問における正答率は、市の平均を8.9ポイント下回っている。 ・「叙述を基に文章の内容を捉えているかどうかをみる」設問における正答率は、市の平均を8.3ポイント下回っている。	・物語を読んで心に残ったことと理由など、自分の考えを伝えられるよう、文章の描写などに注意しながら読み進められるように指導していく。 ・自分の考えを交流する際にはポイントを明示し、観点に沿った話合いや読み取りができるようにする。

宇都宮市立五代小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	67.0	70.3	66.4
	農業や水産業	74.9	81.6	75.3
	工業生産	83.2	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	90.7	91.0	81.3
	日本の政治	65.5	73.2	75.3
	日本の歴史	70.5	67.4	68.5
観点別	知識・技能	71.6	73.5	72.5
	思考・判断・表現	74.5	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

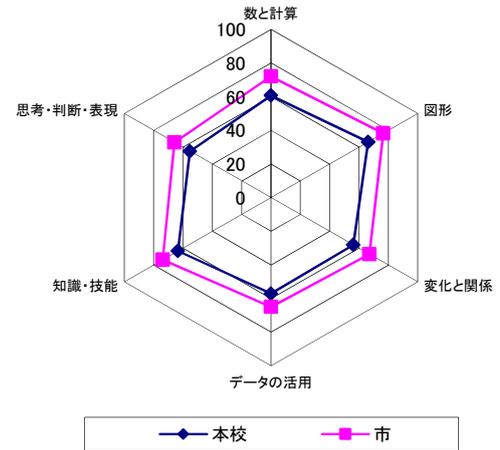
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は市より2.7ポイント低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本周辺の海洋名を答える問題は市の平均を2.9ポイント上回っている。 ・赤道の位置や名称を答える問題では、市の平均を9.5ポイント上回っている。 ・季節風についての理解を求める問題では、市の平均より2.9ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳や資料集を更に活用し、日本の位置関係やその周りの様子について、知識を広げ、興味をもたせるような指導をしていく。
農業や水産業	<p>平均正答率は市より6.7ポイント低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水揚げされた魚の出荷作業における工夫について資料から判断する問題や米の生産が盛んな地域を答える問題では、市の正答率と同等であった。 ・米の品種改良についての理解をもとに資料を読み取る問題では、市の平均を19.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳や資料集から読み取る学習を多く取り入れ、そこから関連付けをしながら、知識を広げられるようにする。
工業生産	<p>平均正答率は市より3.8ポイント低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全性の高い自動車づくりについて、資料をもとに考える問題の正答率は93.8%と高かった。 ・日本の貿易の変化について資料をもとに表現する問題では、市より6.3ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料からデータ等を読み取る学習を多く取り入れ、なぜ、その工程や作業、工夫が必要になるのかなどを考える活動を多く設定していく。
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は市より0.3ポイント低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信と受信の注意点について考える問題では、市の平均を1.7ポイント上回った。また、情報を生かした産業について考える問題でも正答率が90%を超えた。 ・人工林の役割について考える問題では市の平均を17.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近な資料を使用し、生活の中の情報について、関心をもって追及したり、考えたりすることができるようにする。また、人工林などの動画や画像を使って、興味をもたせる工夫をしていく必要がある。
日本の政治	<p>平均正答率は市より7.7ポイント低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・租税の役割についての理解をもとに判断する問題では、市の平均とほぼ同等であった。 ・日本国憲法について理解を問う問題では、市の平均を12.1ポイント下回った。また、基本的人権に関わる問題の正答率も低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・租税や日本国憲法など、政治に関する知識は分野ごとに大きな差があることから、資料集や図書資料等を使って、基礎・基本となる知識の定着を図っていく。
日本の歴史	<p>平均正答率は市より2.0ポイント高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かな文字についての理解を問う問題では市の平均を10.5ポイント上回った。また、江戸時代の禁教と鎖国について資料をもとに判断する問題でも高い正答率だった。 ・弥生時代についての理解をもとに判断する問題での正答率は43.3%と低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な事象のつながりや、歴史上の人物の業績などを表や図を用いて整理してまとめ、基礎・基本となる知識の定着を図る。 ・資料から読み取ったことや自分の考えをまとめ表現する時間を設定し、思考力・判断力・表現力の向上を図る。

宇都宮市立五代小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	60.6	72.1	74.6
	図形	66.2	76.5	76.1
	変化と関係	56.1	67.1	59.7
	データの活用	57.1	65.0	64.5
観点別	知識・技能	63.4	73.8	74.7
	思考・判断・表現	55.2	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

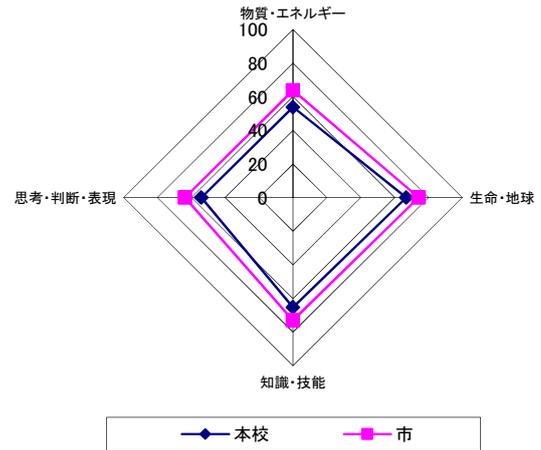
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市より11.5ポイント下回った。 ・「小数の乗法の文章問題を表した図の構造をとらえる」設問では、市の正答率を0.2ポイント上回った。 ・「2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める」設問では、市の正答率を大きく下回った。	・授業の導入時などを利用して、計算問題を繰り返し解き、基本的な計算力の向上を図る。 ・「基準になる数 × 倍数(小数)」の形を見つけ、線分図などを描いて視覚化させながら指導していく。 ・一方の文字(数量)から他方を求める問題は、具体的な場面をイメージさせ、表や線分図を用いて関係性を可視化する指導をする。
図形	平均正答率は、市より10.3ポイント下回った。 ・「平行四辺形の面積を求める」設問では、市の正答率を7.2ポイント下回った。 ・「合同な三角形を作図する」設問では、市の正答率を8.5ポイント下回った。	・平行四辺形の面積を求める際には、公式「底辺 × 高さ」を徹底的に理解できるようにする。 ・合同な三角形を作図するには、コンパスと分度器の正しい操作定着が必須であるため、繰り返し地道な指導を継続する。
変化と関係	平均正答率は、市より11ポイント下回った。 ・「速さと時間から、道のりを求める」設問では、市の正答率を22.8ポイント下回った。 ・「基準量と割合から比較量を求める」設問では、市の正答率を15.4ポイント下回った。	・速さ、時間、道のりの意味や関係性について理解できるよう、基礎的な問題に数多く取り組ませ、速さ、時間、道のりの求め方の習熟を図る指導をする。 ・基礎基本の確実な定着のために、児童の状況に応じて、習熟度別学習を取り入れ個に応じた指導の充実を図る。
データの活用	平均正答率は、市より11ポイント下回った。 ・「円グラフを読み取る」設問では、市の正答率を20.6ポイント下回った。 ・「ドットプロットから、最頻値を読み取る」設問では、市の正答率を1.8ポイント下回った。	・円グラフの読み取りでは、目盛りを正確に読みとれるようにするだけでなく、どのようなことが読み取れるのか、データの特徴や傾向を読み取れるよう指導していく。 ・代表値を求める問題においては、平均値、中央値、最頻値などそれぞれの代表値がどのような意味を持つのか、また、どのように求めるのかを明確にし、確実に定着するよう指導を行う。

宇都宮市立五代小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	53.8	63.8	61.6
	生命・地球	66.9	74.1	73.3
観点別	知識・技能	65.2	73.0	71.3
	思考・判断・表現	54.1	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電流のはたらきの分野で、電磁石の強さに関する実験問題では、市の平均よりやや高い。 水溶液の性質の分野で、うすい塩酸と炭酸水を見分ける問題では、全国の平均よりやや高い。 ものの溶け方の分野で、誤った実験方法を指摘する問題の正答率が市より低い。 ふりこのきまりの分野で、実験の方法と結果から、ふりこの条件を推測する問題では市の平均より低い。 	<p>ものの溶け方やふりこの実験をする際に、予想・実験・結果の考察の時間をそれぞれ確保し、見通しをもって活動する中で、科学的な見方や考え方を深められるように支援していく。また、実験の結果については、表やモデル図、グラフ等を使って視覚的にも分かりやすくまとめる工夫をしていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物とかんきょうの分野では、動物の食べ物のもとをたどる問題では、市の平均よりやや高い。 月と太陽の分野では、月の形が変わる理由を答える問題の正答率は全国の平均よりやや高い。 流れる水のはたらきの分野で、しん食の言葉を書く問題では、正答率が市より20ポイント以上低い。 流れる水のはたらきの分野で、実験の方法を説明する問題では、正答率が市より低い。 	<p>模型や動画の視聴など、視覚的に捉えられるような指導の工夫により、理解を深められるようにする。</p> <p>目的に応じた実験器具を用意し、正しく扱いながら、流れる水のはたらきによる地面の変化を調べられるよう工夫していく。</p>

宇都宮市立五代小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のサイクルを生かした授業づくり ・「使える言葉」を増やす意味調べ学習 ・学力向上の支えとなる土台づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって必要感や必然性のある言語活動(目的のある言語活動)を取り入れた単元づくりを行う。 ・「書く」活動を意図的に設定することで、自らの学びを視覚化し、整理することができるようにする。 ・各学年に35冊ずつ購入した辞書を置いておき、ふだんから調べ学習に生かす。 ・朝の活動の時間を活用し、読書活動の推進、コグトレ、視写等に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科とも、多くの領域で正答率が県・市の平均正答率を下回っている。 ・国語の「書くこと」における正答率が市と同程度であった。言葉の時間や、意味調べなどの活動により、言葉に興味を持ったり、文章を書く際に多くの言葉を使ったりするようになったことで少しずつ取組の成果が表れているといえる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

次年度は今年度に引き続き、文章の内容や意味を理解するために必要な読解力を高める取組に力を入れていく。国語の学習において、文脈から意味を推測したり、語彙力を増やしたりすることで、文章を読む際の基礎となる力の習得を目指し、目的や意図に応じて文章から必要な情報を読み取ることでできる力を育成していく。話し方、聞き方、ノート指導などにも積極的に取り組んでいく。また、基本的な学習態度・学習技能の習得を基に、一人一人に応じたきめ細やかな指導を展開し、基礎基本の確実な定着を図る。